

(トップページ：<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(GCC：<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/GCCgeneral.html>)

マイ・ライブラリー：0224

(注)本稿は2012年4月6日から4月14日まで5回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.4.14

前田 高行

湾岸諸国で働く外国人の給与は？

(Gulf Business 誌「Gulf Business Salary Survey 2012」より)

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. はじめに	1
2. 2011年の給与水準(月額)	3
(1) 職種給与の一例	3
(2) 平均的な給与	3
(3) GCC6カ国の給与格差	4
(4) 6カ国で働く外国人の出身地域別給与格差	4
(5) 6カ国で働く外国人の職種・業種別給与格差	5
3. 2006年～2012年の給与水準の推移	6
(1) 前年比給与増減率	6
(2) 国別平均給与の推移	7
(3) 出身圏別平均給与の推移	8
(4) 職種・業種別平均給与の推移	9

1. はじめに

GCC 各国には極めて多数の外国人が働いており、GCC の民間部門は殆ど外国人によって支えられていると言って過言ではない。これら外国人は大きく三つの階層—企業のトップ、中間管理職、専門職などの Senior Staff(上級職)、事務所、商店などで事務員、店員などとして働く Junior Staff(下級職)及び建設現場の労働者、道路清掃人などの肉体労働者(Worker)—に分類される。これらのうち Senior Staff は労働市場の流動性が高く、彼らは給与の高い勤務先を求めて転職(Job Hopping)を繰り返している。

また湾岸諸国で働く外国人は多様な国籍の人々で成り立っている。給与体系は基本的に欧米式の職種別賃金体系であり、日本のような企業別或いは年功序列型賃金体系ではないが、被雇用者が白人(西欧圏出身者)であるか有色人種(アラブ又はアジア圏出身者)であるかによって賃金水準は異なる。有色人種の中でも同じアラビア語を話す近隣アラブ諸国の出身者とインド、パキスタン、東南アジアなどアジア圏出身者では賃金格差がある。

さらに湾岸のいずれの国で働くかによっても賃金水準は異なる。これは労働の需給バランス

の問題だけではない。その国が産油国であるか否かによって雇用者の給与支払い能力に差異があり、また同じ産油国の中でも宗教的戒律が厳しいなど生活環境が過酷な国は給与水準が高めである。一般的に言えばサウジアラビア、UAE、カタールなどの給与水準は高く、オマーンやバーレーンなどは低い。

このように湾岸諸国では働く国と職種と被用者の出身国により給料が異なる。日本の企業が湾岸諸国で事業を行うために外国人の Senior Staff を雇用する場合、どの程度の給与が妥当であるかは頭を悩ます問題であるが、そのような時に一般的な賃金水準のデータがあれば非常に有益である。

本稿で紹介する Gulf Business はドバイで発行されており、毎年始め湾岸諸国の有力なリクルート企業に聞き取り調査を行って、これを「The Business Salary Survey」として発表している。GCC6 カ国(サウジアラビア、UAE、カタール、クウェイト、オマーン及びバハレーン)の各国ごとに外国人の職種別、出身地別月額給与を調査した一覧表である。調査一覧表は大企業の CEO から役員秘書まで代表的な 22 の職種について GCC 各国ごとの平均給与を示しているが、さらにこれら各職種に就く外国人の出身地によってアラブ圏出身者、アジア圏出身者及び西欧圏出身者毎の 3 つの一覧表から成り立っている。即ち全データの数は 22 職種 x 6 カ国 x 3 表 = 396 となる。(表の全容は「GCC 各国の職種別賃金(月額・ドル)(2012 年)」
<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/1-I-1-50aSalarySurvey2012.pdf> 参照)

なお本稿では 22 の職種を便宜上以下のごとく 6 つのカテゴリーに分けて比較検討している。

- 経営職： CEO/Managing Director with sales of \$50M+ (売上 5 千万ドル以上の CEO/MD)
CEO/Managing Director with sales of \$10-50M (売上 1-5 千万ドルの CEO/MD)
CEO/Managing Director with sales of \$1-10M(売上 0.1-1 千万ドルの CEO/MD)
General Manager - Multinational Company(GM、多国籍企業)
General Manager - Local Company(GM、地場企業)
- 事務職： Head of Human Resources (人事部長)
Hotel General Manager (ホテルマネージャー)
Accountant (経理出納責任者)
Business Development Manager (企画担当部長)
Real Estate Manager (不動産業マネージャー)
Executive Secretary (役員秘書)
- 技術職： Head of Information Technology (IT 部門長)
Construction Project Manager/Chief Engineer (建設プロジェクト Mgr)
- 営業職： Head of Sales/Marketing - Multi National(営業部長、多国籍企業)
Head of Sales/Marketing - Local Company (営業部長、地場企業)
Sales Manager (営業部長)
- 金融業： Banking - Branch Manager (支店長)
Banking - Treasury Manager (資金運用責任者)
Banking - Retail/Personal Banking Manager (顧客担当 Mgr)
- 出版・広告業： Media - Advertising Creative Director(制作部門責任者)
Media - Public Relations Director (PR 責任者)
Media - Publishing Editor (編集責任者)

2. 2011 年の給与水準（月額）

(1) 職種給与の一例

上述の通り GCC 各国で働く外国人の給与は(1)雇用先の GCC6 カ国の違い)、(2)職種(経営幹部、営業マネージャー、建築現場監督等の違い)、或いは被雇用者の出身地(西欧圏、アラブ圏、アジア圏の違い)によって異なるため、Salary Survey の全データ数は 396 あるが、以下はその一例である。

サウジアラビア：売上高 5 千万ドル超の CEO/MD(西欧圏出身)	月額 US\$37,174
サウジアラビア：多国籍企業の営業部長(西欧圏出身)	月額 US\$15,060
サウジアラビア：経理出納責任者(アジア圏出身)	月額 US\$4,901
UAE：不動産業マネージャー(アラブ圏出身)	月額 US\$7,685
UAE：メディア企業 PR 責任者(アラブ圏出身)	月額 US\$10,509
UAE：IT 部門長(アジア圏出身)	月額 US\$11,498
カタール：企画担当部長(西欧圏出身)	月額 US\$10,456
カタール：建設プロジェクトマネージャー(アジア圏出身)	月額 US\$8,910
クウェイト：ホテル・ゼネラルマネージャー(アラブ圏出身)	月額 US\$9,180
クウェイト：売上高 1 千万ドル以下の CEO/MD(アラブ圏出身)	月額 US\$19,175
オマーン：多国籍企業の営業部長(西欧圏出身)	月額 US\$13,136
オマーン：銀行顧客担当マネージャー(アラブ圏出身)	月額 US\$9,035
バハレーン：銀行支店長(アラブ圏出身)	月額 US\$8,981
バハレーン：役員秘書(アジア圏出身)	月額 US\$2,636

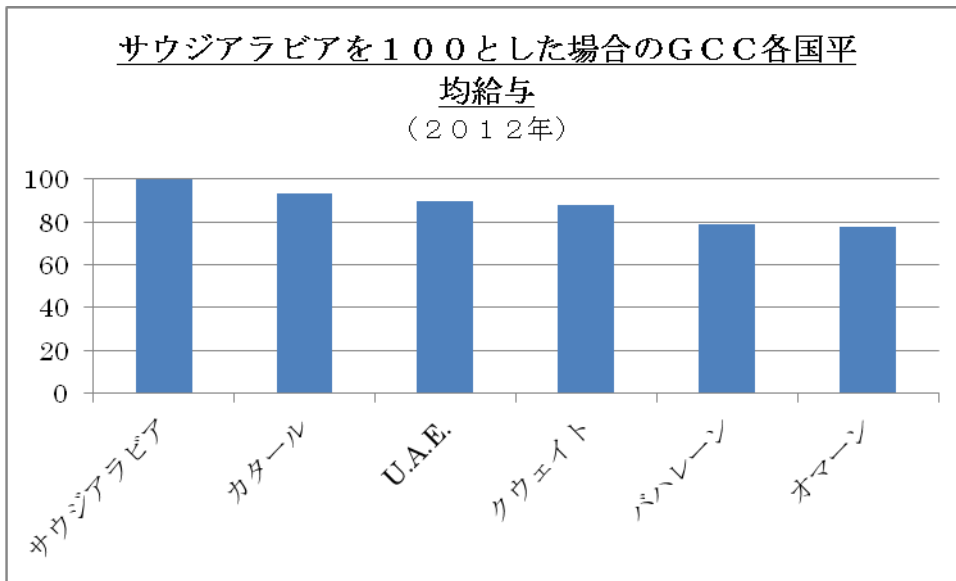
GCC6 カ国 22 職種の中で給与が最も高いのはサウジアラビアの売上高 5 千万ドル以上の大企業で働くアラブ圏出身の CEO/Managing Director (MD) の 37,174 ドルであり、また最も給与が少ないのはバーレーンで働くアジア圏出身の役員秘書(Executive Secretary)の 2,638 ドルである。両者の給与格差は 14 倍であり、また同じ西欧圏出身の多国籍企業営業部長でもサウジアラビアの 15,060 ドルに対しクウェイトの場合は 13,136 ドルであり、給与に 15%の格差がある。

(2) 平均的な給与

6 つの職種・業種別カテゴリー(「はじめに」参照)の平均給与は、(1)経営職 21,950 ドル、(2)金融業 11,241 ドル、(3)技術職 11,024 ドル、(4)営業職 9,963 ドル、(5)出版・広告業 8,978 ドル、(6)事務職 7,986 ドルであり、CEO, MD, General Manager など経営職の給与が飛び抜けて高い。また金融業や技術職など国際的で専門的な知識を必要とする職種・業種の給与水準は 1 万ドルを超えている。これに対して事務職は 2 割程度低い。

出身地域別の平均給与で見ると(A)西欧圏出身 13,748 ドル、(B)アラブ圏出身 12,878 ドル、(C)アジア圏出身 10,317 ドルとなっており、西欧圏出身が最も優遇され、アラブ圏出身者は西欧圏出身者より 6%程度低く、アジア圏出身者の給与は西欧圏出身者の 4 分の 3 にとどまっている。ただしこれはあくまで総平均であって、カタールで働くアラブ圏出身の大企業 CEO/MD は同職種の西欧圏出身者を上回っているなど個々の職種・業種によって異なる。

(3)GCC6 各国の給与格差



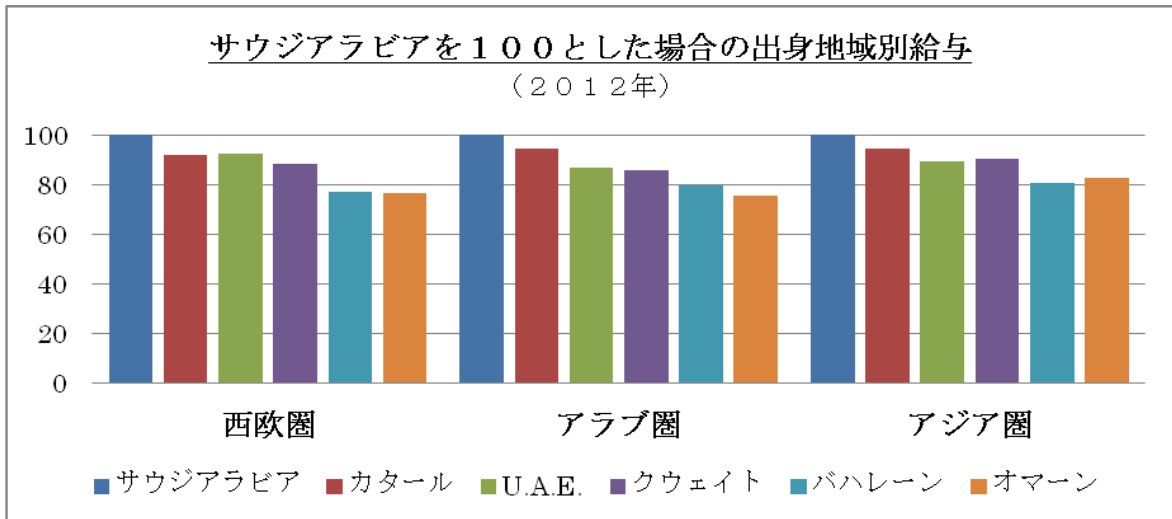
職種・業種別カテゴリによる GCC6 各国の平均給与水準についてサウジアラビアを 100 とした場合、各国の指数はカタール 94、UAE 90、クウェイト 88、バーレーン 79、オマーン 78 である。カタール、UAE、クウェイトの給与はサウジアラビアより 1 割前後低く、オマーンとバーレーンは 2 割以上下回っている。

GCC6 各国の中では石油・天然ガスを産出するサウジアラビア、カタール、UAE、及びクウェイト 4 各国の給与水準が高く、その中でもサウジアラビアが高い。同国は国内で多数のプロジェクトが進行中であると同時に、宗教の規制が厳しいなど外国人にとって生活環境が厳しいため、高い給与を支払う必要があるためである。

カタールはサウジアラビアに次ぐ高い給与水準であるが、これは同国で 2022 年のサッカー・ワールドカップが開催されるため大規模なインフラ工事などハード・ソフトの両面で有能な外国人の需要が高まっているため外国人の給与水準が急速に上がっている。バーレーン、オマーンは他の 4 各国に比べ外国人の給与水準は低い。経済の豊かな国は賃金支払い余力が高く、また民間部門が活発な国は労働の需給バランスの関係で外国人労働者が高賃金を享受できることを示している。

(4)6 各国で働く外国人の出身地域別給与格差

外国人の出身地域別でみた給与は上述のごとく西欧圏出身が最も高くアラブ圏出身がこれに次ぎ、アジア圏出身の平均給与が最も低い。しかし GCC6 各国それぞれについてサウジアラビアを 100 とした各出身地域の外国人平均給与を比べると、いくつかの特徴がみられる。



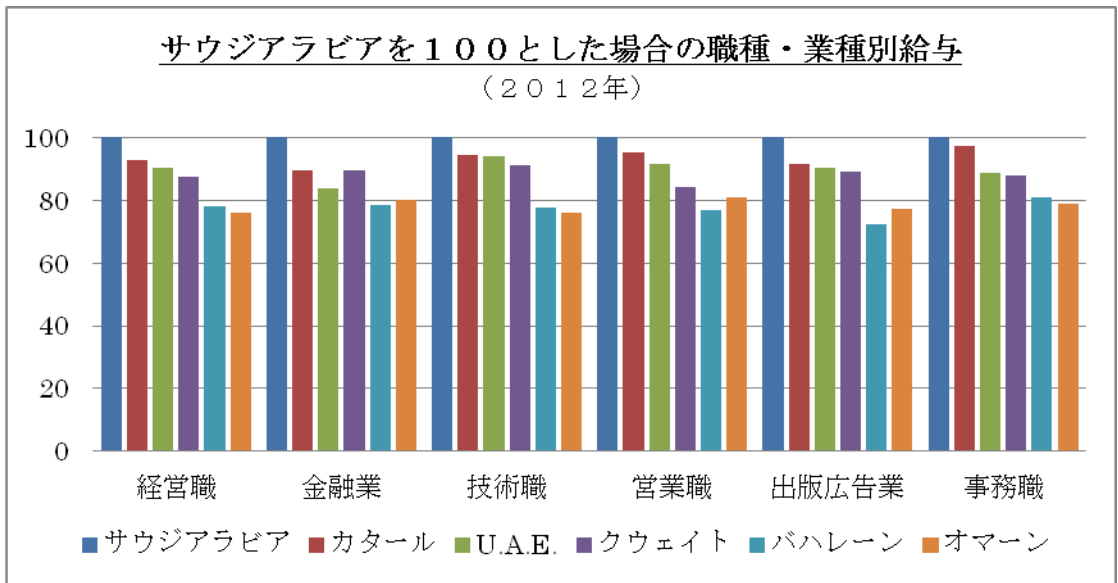
西欧圏出身者の給与はサウジアラビアを100とした場合、カタール及びUAEが92、クウェイト88、バハレーン及びオマーンが77である。昨年はサウジアラビア=100に対しUAE105、カタール86であり、UAEの給与水準はサウジアラビアを上回っていた。一方カタールは今回急上昇しUAEと肩を並べている。UAEはドバイショックの後遺症が残り民間部門のリストラが今も続いている模様であり、一方オイルブームに沸くサウジアラビア及びカタールでは公共部門主導型の経済成長が民間部門に活況をもたらしていると考えられる。バハレーンは騒乱の影響で民間経済が低迷しており、オマーン同様サウジアラビアよりも2割以上低い給与水準にとどまっている。

アラブ圏出身者の場合はサウジアラビア=100に対してカタール95、UAE87、クウェイト86、バハレーン80、オマーン76である。昨年のカタールはバハレーンと同程度であったが、今年の給与水準はUAEを追い抜きサウジアラビアと肩を並べる程度になっている。自国民がわずか30万人程度で民間部門はほぼ100%外国人に頼る同国ではアラビア語・イスラム教と言う共通の文化基盤を持つアラブ人の必要性が高まっていると言える。6カ国で最も給与水準が低いオマーンはサウジアラビアとの間に2割以上の格差があるが、昨年場合は指数66であった。その点ではGCC6カ国でのアラブ圏出身者の給与格差は狭まっている。

アジア圏出身者についてはサウジアラビア=100に対してカタール94、クウェイト90、UAE89、オマーン83、バハレーン81であり、ここでもサウジアラビアの給与が最も高く、カタールがこれに続いている。ここではUAEがクウェイトより低くGCC6カ国の中では4番目である。UAEの場合アジア圏出身者の多くはドバイで働くインド人であるが、昨年の場合同国の指数は92であったことと比べ経済の停滞で給与が下げ止まっていない傾向が読み取れる。

(5)6カ国で働く外国人の職種・業種別給与格差

サウジアラビアを100とした場合の各国との職種・業種別の給与格差を比べると、全ての職種・業種を通じてサウジアラビアが最も高く、カタールがこれに続いている。UAEとクウェイトを比較すると金融業ではクウェイトの方がUAEより高いが、その他の職種・業種ではUAEが高い。但し両国の差はわずかである。バハレーン及びオマーンはいずれの職種でも他の4カ国に比べて低く、サウジアラビアより2割以上低い。

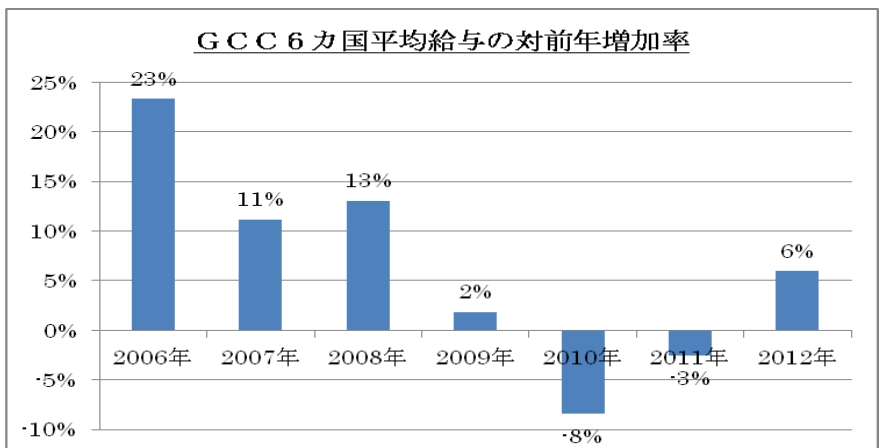


経営職についてはサウジアラビア(100)に対しカタール 93、UAE 90、クウェイト 87、バハレーン 78 オマーン 76 である。金融業の場合はカタール 90、クウェイト 90、UAE 84、オマーン 80、バハレーン 79 の順であり、サウジアラビアの給与水準が突出して高い。技術職についてはサウジアラビア(100)に対してカタール及びUAE 94、クウェイト 91 であり、他の職種・業種に比べサウジアラビアとの格差は小さい。これら4カ国はいずれもオイルブームであり建設プロジェクトマネージャーに対する需要の高いことが共通している。しかしバハレーン及びオマーンは指数がそれぞれ78,76であり、他の4カ国との格差が大きい。両国は昨年「アラブの春」の影響を受けて国内でデモが頻発するなど政情が安定しなかったことでブームから取り残されているように見える。

営業職、出版広告業及び事務職についてサウジアラビアを100とした場合の各国の指標を列挙すると、サウジアラビア(100, 100, 100)、カタール(95, 92, 97)、UAE(91, 90, 89)、クウェイト(84, 89, 88)、バハレーン(77, 72, 81)、オマーン(81, 77, 79)である。

3. 2006年～2012年の給与水準の推移

(1) 前年比給与増減率



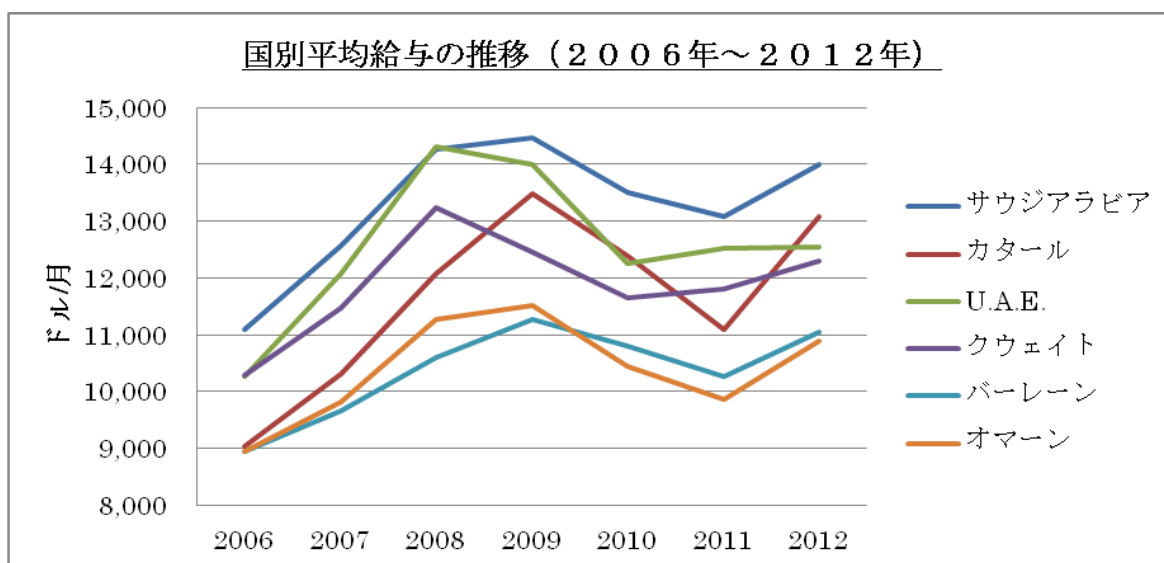
2012年の給与を前年と比較すると、2011年の総平均給与 11,578 ドルに対して 2012年は

12,314 ドルであり前年より 6%アップしている。GCC6 カ国はいずれも前年を上回っているが、その中ではカタールが前年比 15.3%と上昇率が最も高く 6 カ国の中で唯一二桁上昇している。これに次ぐのがオマーンの 9.5%アップである。バハレーン(+7.2%)及びサウジアラビア(+6.5%)も 5%以上のアップを示し、またクウェイトの上昇率は 4.0%である。これに対し UAE は 0.1%のアップにとどまっている。同国は未だに 2009 年のドバイ・ショックの跡を引きずっていると言えよう。

2006 年から 2012 年までの GCC6 カ国の平均給与の対前年増減率をみると、2006 年から 2008 年までの 3 年間は毎年 10%を超えており、特に 2006 年の場合、2005 年比 23%と言う極めて高い伸び率を示している。これは 2000 年初めからの石油の高騰により湾岸諸国に建設・消費ブームが起これ外国人労働力が逼迫したためと考えられる。2008 年 9 月のリーマン・ショックにより世界の景気は急速に萎んだが、湾岸諸国ではその後も暫く好景気が続いた。そのため 2009 年の給与水準も前年比+2%とわずかではあるが増勢を維持した。

しかし 2009 年にドバイ・ショックが発生、湾岸の景気は一気に冷え込み、出稼ぎ外国人にリストラの嵐が吹き荒れ 2010 年の平均給与は対前年比マイナス 8%と大幅にダウンし、2011 年も対前年比でマイナス 3%であった。2010 年以降は石油価格が持ち直し、これに伴って GCC 各国の民間経済も再度ブームの様相を呈している。この結果今年の給与水準は 3 年ぶりにプラスに転じ、年間の上昇率は 6%になると見込まれている。

(2) 国別平均給与の推移



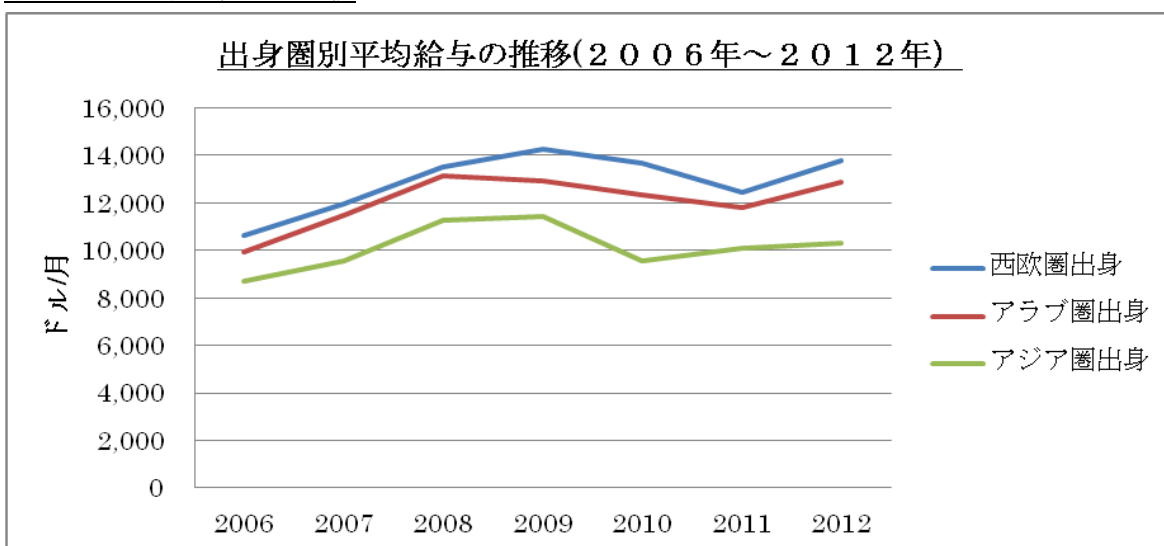
2006 年から 2012 年までの GCC の国別平均給与の推移を見ると、2006 年のサウジアラビアの平均給与は 11,102 ドルであった。これに続くのがクウェイト 10,285 ドル、UAE 10,262 ドルであり、これら 3 カ国が 1 万ドルを超えていた。その他の 3 カ国はカタール(9,026 ドル)、オマーン(8,957 ドル)、バハレーン(8,937 ドル)とほぼ横並びであった。

その後 2008 年までの 3 年間はオイル・ブームの波に乗って 6 カ国とも給与水準は毎年 10%前後アップしている。特に UAE の伸びが目覚ましく同国は 2008 年にはわずかとはいえサウジ

アラビアを追い抜き GCC で最も高い給与水準 (14,312 ドル) となった。しかしその後 UAE はリーマン・ショックに続くドバイ・ショックに直撃されて 2 年間で 2 割近い給与ダウンとなり、2010 年には 12,247 ドルに落ちた。クウェイトも UAE と同様の傾向を示し 2008 年から 2010 年にかけて 2 年連続して下落している。両国はその後 2011 年、2012 年と続けて緩やかに回復している。

その他の 4 カ国 (サウジアラビア、カタール、オマーン及びバハレーン) の給与水準は UAE、クウェイトより 1 年遅れて 2009 年、2010 年と下降に転じている。2011 年には再び上昇傾向を示し、2012 年にはほぼ 2009 年の水準に戻っている。その中ではカタールは給与の対前年増減率の変動が激しく 2010 年は対前年比マイナス 8.7%、2011 年マイナス 11.8% に対し 2012 年は一転してプラス 15.3% である。同国にはドバイ・ショックで失職した UAE の外国人が流れ込んでいると言われるが、2022 年のサッカー・ワールドカップ開催を目指した競技場、ホテル、電気・水・道路など各種のインフラ建設が具体化し外国人の需要が高まっている。このような要因により労働力が供給過剰から供給不足に急変したことが給与水準にも反映していると考えられる。

(3) 出身圏別平均給与の推移



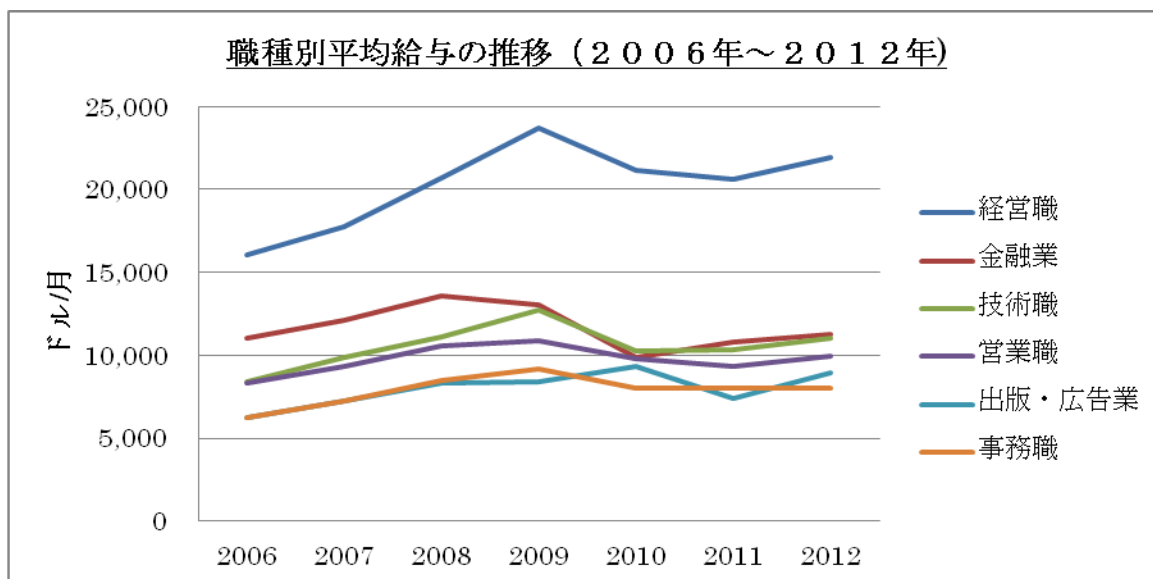
2006 年の西欧圏出身者の平均給与は 10,625 ドルであり、アラブ圏出身者は 9,949 ドル、アジア圏出身者は 8,710 ドルであった (以下それぞれ単に西欧圏、アラブ圏、アジア圏と称す)。西欧圏とアラブ圏の格差は 7%程度でさほど大きくはないが、アジア圏は西欧圏より 2 割近く低く両者の給与格差は大きい。

2006 年から 2008 年まではいずれの給与水準も毎年 9~15%と大きく上昇した。この結果 2008 年の平均給与は西欧圏 13,516 ドル、アラブ圏 13,118 ドル、アジア圏 11,262 ドルに達し、西欧圏とアラブ圏の給与格差は殆どなくなったかに見えた。

しかしアラブ圏は 2008 年を頂点としてその後 2011 年までの 3 年間は下落した。一方西欧圏は 2009 年にピーク (14,259 ドル) に達した後、2011 年にはピーク時から 1 割以上下落し 12,457 ドルとなった。2012 年には両者とも上向きに転じ 2008 年の水準に戻っている。アジア圏は 2010

年に前年比マイナス 19%と大幅に落ち込みその後も回復の足取りは鈍い。2012 年の西欧圏、アラブ圏及びアジア圏それぞれの平均給与は 13,748 ドル、12,878 ドル、10,317 ドルである。アラブ圏は西欧圏の 94%、アジア圏は西欧圏の 75%であり、アジア圏と他の二者との格差は広がっている。

(4)職種・業種別平均給与の推移



職種・業種別の 2006 年から 2012 年までの平均給与の推移を見ると、2006 年には経営職 (16,078 ドル) と金融業 (11,027 ドル) が 1 万ドルを超えており、その他は技術職 8,421 ドル、営業職 8,333 ドル、出版広告業 6,219 ドル、事務職 6,205 ドルであった。経営職の給与が突出して高く、これを 100 とした場合金融業は約 7 割、技術職、営業職は 5 割であり、事務職、出版・広告業は 4 割にとどまり格差が大きい。

2007 年、2008 年はいずれの職種・業種もアップしている。金融業は 2009 年から下落に転じ、その他の職種・業種は 2009 年或いは 2010 年がピークとなっている。金融業は 2008 年のリーマン・ショックの余波がすぐに現れ、その他の職種・業種は 2009 年のドバイ・ショックの影響を受けたものと考えられる。

いずれの職種・業種も 2012 年には上昇傾向を見せ、GCC6 カ国の職種・業種別平均給与はそれぞれ経営職 21,950 ドル、金融業 11,241 ドル、技術職 11,024 ドル、営業職 9,963 ドル、出版・広告業 8,978 ドル、事務職 7,986 ドルである。2006 年(上記)と比較した場合、職種・業種別の順位は変わらないものの、経営職と他の格差は広がっており、経営職はいずれの職種・業種に対しても 2 倍以上である。そして金融業の凋落が激しく、その一方事務職の給与が上昇したため格差は縮小している。経営職と他の職種・業種との格差が拡大しているのは経済環境の悪化により GCC の民間部門では優秀な経営者を求めているためと思われる。

各職種・業種毎の過去 7 年間の平均給与の推移を示すと以下のとおりである。(単位：ドル)

経営職：16,078(06年)→17,787(07年)→20,695(08年)→23,664(09年)→21,164(10年)→

20,642(11年)→21,950(12年)
金融業：11,027(06年)→12,111(07年)→13,542(08年)→13,018(09年)→9,842(10年)→
10,784(11年)→11,241(12年)
技術職：8,421(06年)→9,892(07年)→11,086(08年)→12,735(09年)→10,230(10年)→
10,370(11年)→11,024(12年)
営業職：8,333(06年)→9,300(07年)→10,592(08年)→10,908(09年)→9,821(10年)→
9,365(11年)→9,963(12年)
出版・広告業：6,219(06年)→7,216(07年)→8,356(08年)→8,379(09年)→9,331(10年)→
7,381(11年)→8,978(12年)
事務職：6,205(06年)→7,221(07年)→8,505(08年)→9,208(09年)→7,991(10年)→
8,029(11年)→7,986(12年)

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町2-31-13-601
Tel/Fax: 042-360-1284, 携帯: 090-9157-3642
E-mail: maedal@jcom.home.ne.jp